
茨城県鹿行地域の心疾患医療の充実に貢献
筑波大学附属病院—神栖済生会病院
映像配信システムによる遠隔治療サポート運用スタート

筑波大学附属病院と神栖済生会病院は、本年 9 月 19 日から「映像配信システムによる遠隔治療サポート」を開始しました。同治療サポートは、直線距離で約 68km ある両病院を映像配信システムで結び、筑波大学医学医療系循環器内科学 青沼和隆教授等が、映像配信システムを通じて、神栖済生会病院における狭心症や不整脈を抱える患者の実際の治療を指導するものです。

これまで神栖市内の公的病院では、狭心症や急性心筋梗塞の治療法である PCI(心臓カテーテル治療)や不整脈の治療法であるカテーテルアブレーション(心筋焼灼術)を行っておらず、神栖市におけるこれらの患者は平均で 50 分以上かかる近隣の病院に搬送されていました。その結果、神栖市における急性心筋梗塞の死亡率は全国平均を大幅に上回る状況となっています。

茨城県内は医師不足の病院が多く、心臓カテーテル検査・治療に十分な専門医師数の確保が困難な状況が続いています。こうした中、本年度から神栖済生会病院へ循環器内科医師が配置され、心臓カテーテル検査・治療が開始されます。同治療サポートはこうした状況に対応すべく、PCI、アブレーションなどの最先端治療を施術する専門医を対象として、より豊富な経験を積んだ大学の専門医が指導・育成し、神栖済生会病院の治療体制を刷新することを目的として実施されるものです。また、同治療サポートは今後神栖市民に大きなベネフィットをもたらすことが期待されています。



遠隔治療サポートの様子